毎月5日・15日・25日発行（ただし1月5日、5月5日、8月15日は休刊）　ISSN 1881－4417

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO　2026年（令和8年）11月25日号　No.2041

目　次

APECサミットとプーチン・ロシア …… 1
『ロシアNIS調査月報』2026年12月号のご紹介 …… 10
統計速報 …… 11
2026年1～9月のロシアの貿易／11
キーパーソン …… 12
カザフスタン工業・建設大臣が国鉄総裁に／12
トピックス …… 13
英国、対ロ制裁対象を追加／13
EU、対ロ制裁対象を追加／13
日ロ首脳が約7年ぶりに対面で意見交換／13

APECサミットとプーチン・ロシア
―歴史的米中ロ首脳会談と「平和宣言」―

はじめに

2026年11月18～19日、中国・深圳でアジア太平洋経済協力会議（APEC）サミットが開催された。APECは、日本、米国、中国、ロシア、オーストラリア、韓国、東南アジアなど、アジア太平洋諸国21カ国・地域で構成される経済協力の枠組みだ。

1989年の設立後、1993年から（2019年を除いて）毎年実施されているAPECサミットは今回が33回目。ロシアが参加するようになったのは1998年からで、2012年にはロシア極東のウラジオストクでサミットが行われている。侵攻直後の2022年（タイ）はベロウソフ副首相、2023年（米国）、2024年（ペルー）、2025年（韓国）はオヴェルチュク副首相が代理出席しており、プーチン大統領の出席は2021年のニュージーランド・サミット以来、5年ぶりとなった。

今回のサミットは、加盟国の首脳や代表が、自由貿易、AI、エネルギーの安定供給などをテーマに議論を交わし、「深圳展望」と呼ばれる共同声明を採択して閉幕した。プーチン大統領が久しぶりに出席した背景の1つとして、APECサミットを舞台に用意された史上初となるロシア、中国、米国3カ国の首脳会談がある。そこで本稿では、APECサミット各所でのプーチンの発言と、米中ロ3カ国首脳会談の概要をご紹介する。